源氏物語

THE TALE OF GENJI

Unfolding Narrative of Art and Culture from the Past to Modernity

「源氏文化」の拡がり
絵画、工芸から現代アートまで

開館40周年記念

2024 2.24(土) → 3.24(日)

前期 2.24(土)-3.10(日)
後期 3.12(火)-3.24(日)

休館日：月曜日　開館時間：10時～17時（16時30分 受付終了）
主　催：東京富士美術館　後援：八王子市、八王子市教育委員会
協　力：源氏絵データベース研究会、一般財団法人 民族衣裳文化普及協会
監　修：稲本万里子（恵泉女学園大学 教授）

FAM TOKYO FUJI ART MUSEUM 東京富士美術館 40TH ANNIVERSARY

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1　TEL: 042-691-4511
HP: www.fujibi.or.jp　Facebook: www.facebook.com/fujibi
X: @tokyofujibi　Instagram: tokyofujibi　LINE: lin.ee/kMOQ6yn

土佐光起《源氏物語図屏風》（右隻、部分）江戸時代、17世紀　福岡市美術館蔵（森山コレクション）［展示期間 2/24-3/10］

エピローグ　現代に蘇る『源氏物語』

現代においても、『源氏物語』に触発され、自由かつ斬新な発想で作品を制作する作家は少なくありません。展覧会を締めくくる本セクションでは、現代作家による工芸、文学、漫画等を紹介し、現代における「源氏文化」の様相を探ります。

吉岡幸雄
《若菜上 女三の宮（紅梅の袿と桜の細長）》
平成20年（2008）染司よしおか蔵
©紫紅社

山本茜《源氏物語シリーズ 第一帖「桐壺」》
平成25年（2013）
個人蔵（佐野市立吉澤記念美術館 寄託）

関連イベント

◎ 講座「姫君の空間」&
十二単 着装実演会 ミュージアムシアター
2月25日（日）①11:00～11:45 / ②14:00～14:45
3月17日（日）①11:00～11:45 / ②14:00～14:45

◎ 富士美茶会　3月2日（土）

◎ 展覧会開催記念・第11回源氏絵データベース研究会シンポジウム
「源氏文化研究の最前線」ミュージアムシアター＋Zoom
3月10日（日）13:00～16:30

▶ 詳細はホームページ www.fujibi.or.jp をご覧ください

入場料

大　人　1,500（1,200）円　　中 小 生　500（400）円
大 高 生　900（800）円　　未就学児　無 料

※新館常設展示室もご覧になれます　※（ ）内は各種割引料金［20名以上の団体、65歳以上の方、当館公式SNS登録者ほか］　※土曜日は中小生無料　※障がい児者、付添者1名は通常料金の半額［証明書をご提示ください］

着物で来場された方は割引料金でご入場いただけます

【表面】上：松岡映丘《宇治の宮の姫君たち》（右隻、部分）　大正元年（1912）　姫路市立美術館蔵
下：《源氏絵彩色貝桶》江戸時代、17世紀　東京国立博物館蔵　Image: TNM Image Archives

40TH ANNIVERSARY FAM TOKYO FUJI ART MUSEUM 東京富士美術館

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1
TEL: 042-691-4511

交通案内はこちら ▶

住吉具慶《源氏物語図屏風（若菜上・下）》（右隻、部分）江戸時代、17世紀　根津美術館蔵［展示期間 3/12-3/24］

割引券　大人1,500円→1,200円／大高生900円→800円／中小生500円→400円　本チラシをご提示の上、1枚につき10名様まで有効

「源氏文化」の拡がり 絵画、工芸から現代アートまで

紫式部によって執筆された『源氏物語』は、平安時代中期に成立して以来読み継がれ、現在でも広く愛読されています。主人公・光源氏を中心に、貴族社会における栄華や恋愛模様を叙情豊かに表したこの物語は、文学、絵画、工芸、芸能、香道など幅広い分野に影響を及ぼし、「源氏文化」と総称し得る文化現象を生み出しました。

とりわけ、物語場面を絵画化した「源氏絵」は流派や時代を越えて数多く描かれ、人びとに享受されてきました。本展覧会では、「源氏絵」を中心として、『源氏物語』や紫式部にまつわる美術、工芸、文学作品を紹介します。本展覧会が、それぞれの作品を通して物語を追体験し、『源氏物語』の世界を身近に感じる機会となれば幸いです。

The Tale of Genji, written by Murasaki Shikibu, has been passed down for generations since its completion in the middle of the Heian period (794-1185), and it continues to be widely cherished to this day. Centered around the protagonist, Hikaru Genji, this narrative vividly portrays the splendors and romances of Japan's aristocratic society of the era. It influenced numerous creative realms—from literature, painting and crafts to performing arts and the art of *Kodo* (incense ceremony)—giving rise to a cultural phenomenon collectively referred to as "Genji culture."

In particular, *Genji-e* paintings, which depict scenes from the literary work, have been created by many different schools across the ages, earning widespread admiration. "The Tale of Genji: Unfolding Narrative of Art and Culture from the Past to Modernity" is framed around the *Genji-e* while showcasing artworks, crafts and literature associated with the ageless Japanese masterpiece and its author. We hope the exhibition serves as a portal to and gateway for viewers to the rich, fascinating world of *The Tale of Genji*.

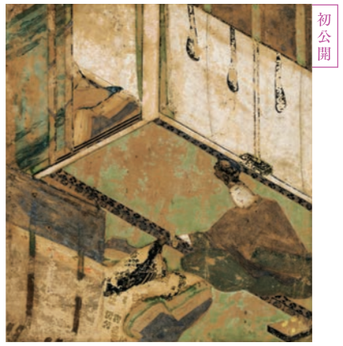
第1部 『源氏物語』とその時代

『源氏物語』が成立して間もなく、その絵画化は始まったとされており、その豊かな表現は現存最古の「源氏絵」である国宝《源氏物語絵巻》に見ることができます。本セクションでは、物語が成立した平安時代の美術・工芸品とともに、模本や再現された装束を展示し、王朝文化の一端をご覧いただきます。

重要美術品

尾形光琳《紫式部図》江戸時代、18世紀　MOA美術館蔵

初公開



《源氏物語小色紙宿木》
平安時代、12世紀
個人蔵

伝 寂蓮
《源氏物語絵巻詞書断簡（松風段）》
平安時代、12世紀
書芸文化院
春敬記念書道文庫蔵
［展示期間 2/24-3/10］

復元装束による打出の再現展示／二人の女房による打出の様子
令和3年（2021）
民族衣裳文化普及協会蔵

［再現展示］

第2部 あらすじでたどる『源氏物語』の絵画

『源氏物語』は絵巻や冊子をはじめ、扇面、色紙、屏風など様々な形式で描かれました。ここでは五十四帖のストーリーに沿って、土佐派や住吉派による画帖、絵巻、色紙形式の作品を中心に多種多様な「源氏絵」を紹介します。あらすじの解説を随所に織り交ぜ、物語を理解したうえで作品を鑑賞いただけるように展示します。

重要文化財

土佐光吉《源氏物語手鑑》より「桐壺一」 桃山時代、慶長17年（1612）頃
和泉市久保惣記念美術館蔵　［本場面の展示期間 3/12-3/24］

重要文化財

土佐光吉《源氏物語画帖》より「若紫」
桃山時代、17世紀　京都国立博物館蔵
［本場面の展示期間 3/12-3/24］

重要文化財

《源氏物語絵詞》鎌倉時代、13世紀
大和文華館蔵
［展示期間 2/24-3/10］

住吉如慶《源氏物語手鑑》より「葵」
江戸時代、17世紀　大阪青山歴史文学博物館蔵
［本場面の展示期間 3/12-3/24］

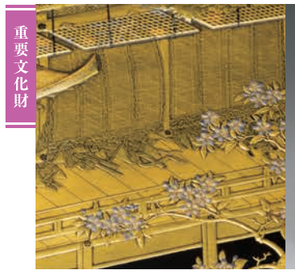
第3部 『源氏物語』の名品

重要文化財

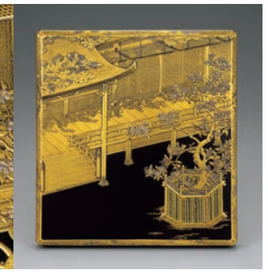
狩野晴川院養信《源氏物語図屏風》（左隻）江戸時代、文政9年（1826）　法然寺蔵

桃山時代以降には、大画面に物語場面を描く屏風形式の「源氏絵」も次々に生み出されます。本セクションでは、一隻に一場面を大きく描く屏風や、二～三場面を組み合わせて描いた屏風作品を中心に、大画面「源氏絵」の名品の数々を紹介します。また、「源氏絵」の図様や特徴的なモチーフは、工芸の意匠としても取り入れられるようになります。ここでは、物語を主題とした漆芸品を中心として紹介し、ジャンルを超えた『源氏物語』の拡がりを見ていきます。

重要文化財



（部分）打出の描写



《紫宸殿蒔絵硯箱》
江戸時代、17世紀　個人蔵

岩佐又兵衛《和漢故事説話図 浮舟》江戸時代、17世紀　福井県立美術館蔵
［展示期間 3/12-3/24］

第4部 近代における『源氏物語』

明治時代以降も、『源氏物語』とその作者・紫式部はひとつの着想源としてあり続け、伝統的なやまと絵の手法を重んじつつも、近代的な視点で登場人物の内面や情景に迫る作品が制作されました。本セクションでは、尾形月耕、松岡映丘、上村松園、安田靫彦らによる「源氏絵」を紹介します。また、物語の普及に大きな貢献を果たした、与謝野晶子と谷崎潤一郎による現代語訳本の装丁・挿画にも目を向けます。

上村松園《紫式部之図》
大正10年（1921）頃　二階堂美術館蔵

安田靫彦《源氏帚木》昭和31年（1956）二階堂美術館蔵

荻生天泉 他《源氏物語絵巻》より「葵」
昭和3年（1928）～昭和9年（1934）頃　大阪青山歴史文学博物館蔵
［本場面の展示期間 3/12-3/24］